

5月13日の礼拝メモ

『毎日喜び、楽しんでおられる神』

創世記1:1～3,31 箴言8:27～31

わたしは毎日喜び、いつも御前で楽しみ、
神の地、この世界で楽しみ、人の子らを喜んだ。

序]

今日は、野外礼拝。自然界に囲まれながら、造り主を讃美し礼拝する。今朝のタイトルは「毎日喜び、楽しんでおられる神」我らの神は何を喜んでおられるのか。

本]

I 初めに、神

この言葉は何を意味するか。

- ①すべての始まりには、すでに神様が存在しておられたということ。
- ②その神様が事を始めなければ何も始まらなかったということ。
- ③人間はずっと後に登場してきたということ。「初めに、神」であって、人間ではない。本当の神は、人間が作り出せるようなお方ではなかった。ましてや、人間が神になれるはずもない。我ら人間は、偉大な神に対する自分の小ささを弁え知らなければならない。

II 神が、天と地を創造された

「天」は宇宙空間のすべての天体を意味し、「地」は、目に見える自然界のすべて。この地球を形造る空と海と大地、そこに住む人間を頂点とするすべての動植物を指す。科学的な数字で証明できる目に見えるものも、それから我らの肉眼では見えない、思考を越えた目に見えないものも神がすべてお造りになられた。

III 非常に、良かった

神は、ご自身が造られたすべてのものを最高傑作品として非常に満足された。その際の神の感情が豊かに表現されているのが箴言8章の御言。*新改訳聖書で、ひらがな表記「わたし」は神。漢字表記の「私」は当事者。8章に出て来る「わたし」は主イエス。三位の神は、ご自身の創造されたすべてのものをご覧になられ、毎日喜び、楽しんでおられる。

結]

神は、感情豊かなお方である。我らも、もっと喜びを表そう。神は我らを喜んで下さっている。その神の視線を感じ、我らも、神に感謝し、喜ぼう。そして、今日、我らは、直接、野外で創造者を礼拝している。草花を見ながら、その草花自体の美しさを感じ、同時にそれらを造られた神をほめたたえよう。